

淡海節

滋賀県民謡

船をひきあげ
漁師は帰る

あとに残るのは櫓と櫓

浪の音
ヨイシヨコシヨ
浜の松風

手綱ゆるめて
花の路帰りや

鈴に浮かれて
勇む駒

花が散る
ヨイシヨコシヨ
里の夕暮れ

淡海節

喜劇役者「志賀廼家淡海（しがのや・たんかい）」が、1916年（大正5年）頃巡業先の舞鶴の浜で、舟を「ヨイシヨヨイシヨ」と引き上げる光景を見て故郷を偲び着想を得て作られた。翌年、熊本の大和座の劇中で「ヨイシヨコシヨ節」を初めて唄い、庶民層、花柳界などでも大いに受け、ファンによって「淡海節」と呼ばれるようになった。曲・詞ともに淡海の作である。

現在では淡海生誕地の滋賀県大津市堅田で民謡化され、1984年（昭和59年）に淡海節保存会が結成された。

*歌・三味線
本多数代

2026.1.1 むさしの教会新年礼拝

K.Yagi